
Revenge play—**復讐**—

霞焰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

R e v e n g e p l a y ― 復讐 ―

【Nコード】

N 2 3 2 2 F

【作者名】

霞焰

【あらすじ】

十年前、“あの日”に家族、双子の弟を殺され、唯一助かった霧火。そんな彼の復讐劇――。

P r o l o g u e (前書き)

警告

もしかしたら、残酷且つグロテスクな表現が含まれるかもしれません。

無いとしても、殺人などの表現が出てくるかもしれません。
なので、このようなモノに影響しやすい方、苦手な方は読まないことをオススメします。

P r o l o g u e

皆さん、復讐をした事がありますか？
いや、無くても考えた事がありますか？

普通はありませんよね。

ふ　　つ　　う　　は　　ね　　？

だけど、彼は普通ではなかった。
それは、きっと彼の家族が殺された時から。
彼の人生の歯車が狂いだした。

彼は復讐を考えた。

家族を殺した奴に――。

P r o l o g u e (後書き)

初めて、此処に書かせてもらいます。
まだまだ、拙い文章だとは思いますがよろしく願います。

第1話

家に帰ると、異臭が鼻に突いた。

「父さん、母さん？　霧夜^{キリヤ}……………」

彼は囁くように言う。

が、返答はない。皆、居るはずなのに……。

そう、思いながら彼はリビングへ行く。

リビングに行くにつれ、異臭が強くなり、吐き気を催した。けれど、リビングのドアに人影を見た彼は嬉々としてリビングのドアを開け——　呆然とした。

彼の目の前には——。

紅く染まってピクリとも動かない両親、双子の弟。

そして、黒い服を纏った男。

「何だ、まだ餓鬼が居たのか」

男がそう呟いた瞬間、彼の右目と背中に激痛が走った。

「ぐあっ！！」

彼は倒れた。

自身も両親、弟と同じように自分の血で紅く染まりつつ……。

「助けが来れば、御前は助かる」

男は笑ってそう言うと、空気の様に姿を消した。

痛みで意識が朦朧としている中、彼は唇をかみ締め心に灼き付けた。

今日と言つ日を――。

そして、自分の幸せを壊していったあの男に復讐をする事を――

「リ？――きりほ？霧火^{キリホ}！！」

ハッと我に返ると、流衣^{ルイ}の心配そうな表情。

霧火は眼帯で隠されていない方の左目だけで笑うと言う。

「あ……悪い。ちょっと、ボーツとしてたわ」

「本当？顔色、悪いよ？」

「顔色が悪いのは御前の目が可笑しいからだ」

霧火が何時も通りの口調に戻った事に安心したのか、何時もなら馬鹿にされた事に対し怒るのに、流衣は笑った。

しかし、霧火は流衣の笑みとは対照的に眉をひそめる。

――なんで……？なんで、あの日の事を思い出すんだ？

十年前のあの日の事なんか……。

「ねえ、霧火」

「ん？」

今度はすぐに返答できた。

が、流衣は深刻そうな表情。

「な、何だよ？」

「何時まで此処に居る気？」

「あ……」

そう呟いて霧火は下を見る。

下には、二人の男子と一人の女子が居た。

皆、呆れたような怒ったような表情をしている。

そう、霧火と流衣は生徒会役員。そのため任された文化祭準備が面倒でサボるため、学校の庭にある巨木の幹で辺りが暗くなるまで隠れていたが、この様子じゃ……。

見つかったらしい、それしか考えられない。

第2話

「うわー。もう、見つかるとはな」

霧火はそう呟きながら、幹から飛び降りて器用に着地する。
そして、流衣も飛び降りる。

危なげなく着地した流衣を見て霧火は呆れたように言った。

「御前、一応女の子なんだからそれらしくしろよな？」

「一応って何？ 一応ってさ！？」

「君等、コントしてないでいいからさ」

二人の男子の内、銀のフレームの眼鏡をかけた男子が呆れた口調で言う。

「五月蠅いよ！！ 亜貴^{アキ}！！」

「いやいや、亜貴に逆切れすんなって」

霧火は笑いながら言う。

それが、余計に流衣を怒らせてもいた。

そして、もう一人の茶髪の男子が既に暗くなっている辺りを見回しながら言う。

「おい、そろそろ戻らねーと、風紀に見つかる」

「其処に居るの、何年生！？」

「ぞ……」

五人が振り向くと、霧火達を通っている炎蘭学園の一年の風紀委員の姿が見えた。

「ほら、言わんこつちゃねえ」

「響、見つかったんだから逃げても、呼び出しくらうだけじゃないかしら？」

「美羽。でもよお」

「でも、美羽。俺等はまだしも、キリと流衣は一応、理事長が預かっている子だから呼び出しくらっちゃ色々困るんじゃない？ 二人が」

霧火と流衣は頷く。

亜貴がそう言つと、美羽と呼ばれた軽いウェーブのかかった柔らかい茶髪を腰まで伸ばした女子は、

「そうね」

と呟き笑った。

「おい！！ 此処から寮まで抜けれるぞ！！」

響の声に皆が反応する。

そう、炎蘭学園は寮生活を強いられる。

「じゃーね。風紀の一年生」

「いい加減、名前覚えてあげようよ。いつもいつも俺等に振り回されているのに」

「確か、伊藤柚夏ちゃんよね？」

「美羽、記憶力良いねー」

「御前が悪いだけだろ」

「霧火、ひどくない！？」

そんな会話をしながら、彼等は風紀委員の前から姿を消した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2322f/>

Revenge play——復讐——

2010年11月23日03時14分発行